（公社）三国・芦原・金津青年会議所
2025年度　スローガン・基本理念・基本方針・運営方針

理事長　大嶋　朋裕

【スローガン】

成長の種を蒔こう
～共に挑み、共に成長～

注：MAK＝Mikuni.Awara.Kanazu
（三国・芦原・金津）の略称

【基本理念】

●はじめに

私は三国町で農業を営んでおり、主に米や麦、大豆を栽培しています。農業を通じて学んだことは、作物の成長は何か一つでも欠けてしまうとより良いものにならないということです。良い種を蒔き、水や肥料、温度管理などを適切に行うことで美味しい作物を収穫することができます。人の成長も作物と同じであると私はJC活動で体験しました。

私は入会して3年目の時、福井ブロック協議会の委員長の役職に挑戦させていただきました。初めての役職ということもあり、最初はどのように議案を構築すればよいのか、事業を運営していけばよいのか全く分からない状況でしたが、周りの先輩方や委員会の仲間に支えられ委員長をやり遂げることができました。私はこの体験を通してJCの3信条である「課題解決に向けて考える力を養うための修練・仲間のためなら協力を惜しむことがない友情・他者や地域のために無償で行う奉仕」を感じることができました。そして、人と作物が成長するために必要な共通点である「欠けてはいけない」ということを発見することができました。作物の成長には水や肥料、光が必要なように、人の成長には修練や友情、奉仕が必要であり、JCには成長するための条件がそろっている組織だと気づきました。ここから私はJCへの関心がより深まり、様々な役職を経験させていただきながら着実に成長していきました。

その後、この体験をMAK・JCのメンバーにも体験してほしいと考えるようになり、私は理事長になる決心をしました。人も作物と同様に、簡単には成長できません。種を蒔いても芽が中々出ずに枯れそうになることもあるでしょう。しかし、枯れそうになったら友情という肥料を与えてくれる仲間と共に成長すればよいのです。2025年度のMAK・JCは、メンバー一人ひとりが成長の種を蒔き、奉仕・修練に挑み、友情という肥料で支え合いながら、3信条を体験できるJC運動を全力で進めて参ります。

●まちづくりについて

MAK地域には、先人たちが守り育ててきた豊かな自然や伝統的な文化、歴史など人を惹きつける多くの魅力があり、その魅力を発信している各諸団体が存在します。また昨年の北陸新幹線敦賀延伸に伴い、今まで以上に地域全体で魅力発信の機運が高まってきています。この機会を逃さず、地方創生を推進していくためには青年や壮年、高年など様々な年代の力が必要であると考えます。青年の柔軟なアイディアと壮年、高年の知見が合わさることで視野が広がり、よりよい事業を展開していくことが可能となります。

そこで本年は、様々な世代の方をまき込み、MAK地域の魅力を体感できるまちづくり事業を開催します。市民サポーターをはじめとした青年と、まちを良くしようと活動している各諸団体を、我々が中心となってつなげ、一緒にMAK地域を盛り上げることで、笑顔の花が咲き誇る事業を目指していきます。

●会員拡大について

JCでは満40歳で卒業という決まりがあり、全国的にも会員数が減少しています。MAK・JCも例外ではなく、10年前の会員数22人と比べても会員が減少しています。会員が減少することは組織が存続できず、地域にJCがなくなってしまったら、青年が成長できる機会の一つが失われてしまいます。我々は明るく豊かな社会を実現させるために、JCを存続させ会員を拡大してい

かなければなりません。

JCは、多様な価値観に触れ、自己成長を促進する機会が豊富であり、地域課題に全力で取り組む中で、行政や多くの各諸団体とのつながりを広げられる魅力的な組織です。その魅力を伝えるために、まずは我々の存在を知ってもらい、理解してもらうことが重要です。そのためにはメンバー全員が受動的ではなく、能動的に行動を起こし、候補者一人ひとりに対して地道に声をかける必要があります。昨年、期首会員数は13名でしたが、現役メンバー全員が会員拡大を自分事として意識し、拡大に取組んだことで、今年の期首会員数は16名に増加しました。そこで今年度は、昨年の成功事例を参考にしながら、よりメンバーが能動的に動きやすくするために、メンバー内で複数のチームを組み拡大情報の共有を行うことで、拡大に対しての意識を今以上に高めます。そして、複数人のメンバーが候補者に対して丁寧なアプローチを行うことで、新たな仲間の獲得を目指します。

●人財育成について

組織の発展や地域社会の未来を担う人財になるためには、メンバー一人ひとりが組織や地域社会が抱えている課題に対して能動的に考え、実践を通してリーダーシップとフォロワーシップを学びながら、成長していかなければなりません。成長の機会は日々のJC活動や地域との交流、そして新たな挑戦から得られます。これらの機会を通じて、メンバーが共に学び合い、時には失敗を恐れずに挑戦することができる環境が作られることで、メンバーが持つ潜在的な力を育み、組織全体の力となっていくのです。

本年度はメンバー一人ひとりが役割を持ち、能動的に行動できる機会を提供します。小さな役割でも責任感を持って行動し、分からないことがあればメンバーが寄り添いながら実践を通して育成していきます。各自が自己成長を遂げられる環境を作ることで、MAK・JC全体がさらに活気に満ちた組織となり、地域社会により大きな貢献を果たすことができると信じています。

●55周年記念式典について

1970年、MAK地域に「明るい豊かな社会の実現」に向けMAK・JCが創立されました。そして、志高い諸先輩方の継続したJC運動によって、MAK・JCは地域に根付いた存在となり、本年に創立55周年を迎えます。

現役メンバーである我々は地域のため、MAK・JCのため、自分たちのためにどうあるべきなのでしょうか。時代の変化に合わせ、我々も進化しなければなりません。そのためには常に何が重要であるのかを考え、行動していく必要があり、行動に移すためには組織としての行動指針が必要不可欠であると考えます。そのため50周年の時に策定したアクションプランをもう一度メンバー一人ひとりが振返り、地域やMAK・JCに何が必要なのかを考え、先の60周年に向けての行動指針を策定させ、55周年記念式典にて発表します。今までの歴史を振り返りつつ、地域の先頭に立ち、けん引できるようなMAK・JCを築き上げていきます。

●組織運営について

組織が円滑に活動・運動を行うためには、対内外それぞれの取組が必要となってきます。まずは、対内について考えると各会議や例会、事業などの確実な設営及び丁寧な出席確認はもちろん、メンバー一人ひとりが気兼ねなく参加できる雰囲気作りが重要です。そして、対外の取組として、我々の存在価値を高めていくために、HPやSNSを活用した情報発信を積極的に行うことが重要であると考えます。そして最後に、健全な財務運営が必要となってきます。現状のMAK・JCの財務状況はとても厳しい状況であり、組織が存続していくための変化をしなければなりません。本年は、今まで以上に柔軟な組織運営を行い、持続可能な組織を目指します。

●結びに

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」(詠み人知らず)

私たちはこの地に根付き、育んでもらった一粒の種もみです。どれだけ会が大きくなろうと、個々の商売が花開こうとこの地域に根付かせていただいていることに感謝を忘れてはなりません。謙虚であり続けると同時に垂れた頭は新たな種を抱いています。その種を再びこの地域へ蒔かせていただいて、持続可能な地域を育んでいくことを学び、率先して行動していけるリーダーへ成長させてくれる組織、それがJCだと断言します。目まぐるしく状況が変わる時代でも地域をけん引できるリーダーを目指し、共に成長していきましょう。

【基本方針】

・地域に根付くまちづくりの実施
・メンバー全員での会員拡大
・伴走型支援の人財育成
・創立55周年記念式典及び交流会の実施
・市民サポーターの交流と開発の実施
・健全な財務運営が行える組織作り

【運営方針】

・まちづくりとしての七夕事業の開催
・メンバー一丸となっての会員拡大の実施
・拡大実施情報の共有
・実践を通しての人財育成
・55周年記念式典及び交流会の実施
・公益社団法人から一般社団法人への法人格の検討
・市民サポーターとの交流
・他団体と協力しての事業の実施
・新年会の実施
・理事会、総会議事録の作成
・総会、例会、理事会の設営
・HPに新たなコンテンツの追加
・HP、SNSの更新管理と発信
・公益会計基準に則った財務管理
・福井ブロック協議会への協力ならびに支援
・日本JCが開催する事業の積極的な参加